

11) 大阪大学歯学部附属病院

①特徴

昭和 26 年に大阪大学医学部歯学科から分離独立し歯学部が創設され、その 2 年後の昭和 28 年に大阪大学歯学部附属病院が設置され、64 年を迎えている。平成 12 年度の大学院重点化を機に、患者さん中心の治療の効率化を図るために病院の診療体系を、11 診療科体制から 3 診療科体制（歯疾制御系科、咬合・咀嚼障害系科、顎病態系科）に再編した。また、中央診療施設等として、検査部、顎口腔機能治療部、障害者歯科治療部、口腔総合診療部が、その他、一般歯科総合治療センター、近未来歯科センター、口唇裂・口蓋裂・口腔顔面生育治療センター、国際歯科医療センター、総合技工室、医療情報室が設置されており、大学病院としての機能が非常に充実している。歯科ユニット数は 202 台で、外来患者数は 1 日平均約 900 名（年間延べ約 22 万人）、病床数は 40 床で入院患者数は 1 日平均約 30 人（病床稼働率を 80%程度に抑え、年間延べ 1.2 万人）である。

前述の咬合・咀嚼障害系科に属する口腔補綴科は、一般社団法人日本口腔顔面痛学会の認定研修施設であり、指導医 2 名、専門医 1 名が勤務しており、多施設とも連携して口腔顔面領域の慢性痛患者に対する取り組みが行われている。

②診療連携

・大阪大学医学部附属病院から、口腔顔面痛を呈する患者 1 症例について、口腔顔面痛の精査目的で紹介された。

・滋賀医科大学医学部附属病院から紹介された 2 症例について、口腔顔面痛に対する評価・診断・治療方針の提案を行った。

・関西医科大学医学部附属病院から紹介された 2 症例について、頭頸部慢性痛に対する評価・情報提供を行った。

・篤友会千里山病院に、短期集学的入院リハビリテーション適応である 1 症例を紹介した。

③研修会

また、平成 30 年 5 月 20 日に、大阪府歯科保険医協会主催の学術講演会「日常臨床で知っておくべき非歯原性歯痛の診断とその対応」において石垣尚一が講演を行った。対象は主に大阪府の開業歯科医師であり、約 100 名が参加した。

④施設訪問

なし

⑤その他

慢性痛に関する臨床研究の推進のために、慢性痛に関するスクリーニング検査手法の開発を目的とし、平成 29 年 12 月に本学歯学部・歯学研究科・歯学部附属病院倫理委員会に臨床研究「顎関節症における疼痛の中枢性感作による過敏化発症の実態調査ならびに中枢性感作が治療成績に及ぼす影響」を申請し、承認を得て、臨床研究を実施している。

顎関節症に対する開口訓練や認知行動療法などの非観血的な治療法には世界的なコンセンサスが得られているが、治療に対して反応が鈍く予後不良な症例も存在する。原因として中枢性過敏あるいは末梢性過敏による疼痛の増大や遷延化が考えられるが、実際の発症頻度についての報告はなく、その詳細は未だ明らかにされていない。そこで、本研究課題では次の 2 点を目的とした。第一の目的は、反復熱刺激による時間的加重により、顎関節症における疼痛の中枢性感作による過敏化発症の実態を明らかにすることである。第二の目的は、この中枢性感作ならびに Diagnostic criteria for temporomandibular disorders (DC/TMD；顎関節症の診断基準) や精神心理学因子が、顎関節症に対する治療成績に及ぼす影響を明らかにすることである。